



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第195号 2018年6月号

SINCE 2002.4.1.

発行日平成30年5月30日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

梅雨が来る前に

いい季節となりました。この時期に衣替えや部屋の空気の入替えをして、少し早いですが、じめじめとした梅雨に備えましょう。

気がついた時には、取り除くことが困難な状態に陥ってしまうカビ。しかし、カビは、いつの間にかやってくるのではなく、常に生活空間に存在しています。カビの正体を知って、繁殖を防ぎ、すっきりと清潔な住まいで梅雨を乗り切りましょう。住まいのカビの繁殖を防ぐには、室内の湿度を下げるのが、最も効果があるとされています。エアコンで除湿をするほかに、天気の良い日は襖や窓を開放し、部屋全体の空気を入れ替えることも大切です。また、カビの栄養となるものを排除するためには、こまめに掃除をする以外に方法はなさそうです。

平成29年の介護保険住宅改修工事以来、住宅設備のメンテナンスや補修工事を担当させていただいているお住まいをご紹介します。

今回は、先月号の「すまい造りメール」第194号でご紹介させていただいた、一日で取付ができる収納式玄関網戸「LIXILしまえるんですα」の施工例についてです。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

両脇のスペースに網戸を収納できる引き分けタイプです。

「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ピフォアー、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。



東京湾の軍事遺産

三浦半島と房総半島に囲まれた東京湾が最も狭まる走水地区の丘の上に旧陸軍の要塞



「走水低砲台跡」があります。カノン砲を据え付けていた直径13mの砲座が4か所あり、山腹にはレンガ造りの弾薬庫が2棟と兵舎が1棟あります。

これまで未公開だった「走水低砲台跡」が専門ガイドによる案内とともに公開されています。猿島砲台跡の見学と組み合わせると軍事遺産を巡ることもできるようです。(参考・神奈川新聞)



皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. 創刊 2002.4.1. **Next50**

よこすか文学館

<30>

横須賀市にゆかりのある文学者や歴史上の人物にスポットをあてて、時代背景とエピソードを交えながら彼らの文芸を紹介します。

【咸臨丸の人々】福沢諭吉「漢詩」②

電力事業の実業家として著名な松永安左エ門は、福沢諭吉に親炙した人物で、『人間 福沢諭吉』(実業之日本社)という著書もあります。そのなかで彼は、福沢は聖徳太子、空海と並ぶ日本史上の偉人、と称賛しているのですが、欠点も指摘していて、福沢はかなりの「親ばか」だったようです。さて、そんな福沢は、長女が腸チフスに罹患した折、愛情ゆえの辛さを漢詩に詠んでいます。「(前半略)家門多福君休道(家門多福なりと君道ふを休めよ)/吾羨世間無子人(吾は羨む世間の子無き人を)」。四男五女併せて九人の子宝に恵まれた福沢でしたが、それだけ子ゆえの心痛は絶えず、子どものない人を羨ましいと思うこともあったのでしょうか。



洗足学園中学高校教諭
中島正二

横須賀製鉄所物語（佐波一郎）〈43〉

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話を伺いました。

佐波一郎は、『新横須賀市史』によりますと1854年（嘉永7年）11月25日、佐原藩士・藤井喜一郎の二男として江戸小川町に生まれ、後に叔父の佐波銀次郎の養子となりました。

その後、14歳になって横浜に出て、メルメ・カションにフランス語を学び、1868年（明治元年）には横須賀製鉄所の覺舎に入校し、しばらくして、明治新政府により廃止されて行く先を失いますが、1870年（明治3年）に製鉄所の譯官の具申で覺舎は復活し、再び覺舎に戻り寄宿舎生活をしている時に、フランス人教師によりフランス語、数学、物理学、造船工学などを学びます。これらの講義はみなフランス語によるもので、まだ10代の少年がこのように非常に高いレベルの教育を受けていたので、さぞかし大変な苦勞を重ねたことだと思います。

そして、1872年（明治5年）には、第一期卒業生として山口辰弥・川島忠之助・谷口弥八郎など7名とともに卒業しました。

卒業後には、医師として横須賀製鉄所に派遣されていた軍医サヴァティエに随行して、横須賀や近郊の地での植物採取の調査に大きな貢献を果たしました。また、船舶に大量に使用される木材調査のための通訳として、日本各地の官有地の調査にも当たりました。

そして、2015年に横須賀製鉄所（造船所）創設150周年記念展として実施された横須賀市立自然・人文博物館の特別展「すべては製鉄所から始まったMade in Japanの原点」の展示において、特別展示解説書によりますと「横須賀製鉄所ゆかりの植物たち」として、サヴァティエが新発見し、横須賀の名を付けた植物や、製鉄所ゆかりの人の名を持つ植物などの写真が展示されていました。さらに、サヴァティエは「日本と西洋の植物を伝えた人」と評価すると共に、研究成果を「サヴァティエの植物学研究は、フランスの植物学者フランシエとの共著により、2巻からなる『日本植物目録』として、明治8年（1875年）と明治12年（1879年）にフランスで刊行され、日本植物学研究の教科書となりました」と記されています。

こうした研究の実施から研究成果の取り纏めに至る中で、造船技師のエリートであった佐波一郎はサヴァティエの研究を支え続け、日本の植物学の幕開けについて横須賀製鉄所が大きな役割を果たすことが出来ました。

さらに、佐波一郎は、1922年（大正11年）には、小栗上野介・ヴェルニーの記念銅像を諏訪公園に建設するに当たり、その発起人の一人として務めることになりました。

（元横須賀市助役 井上吉隆）



ヴェルニー公園

応長津波

自分が住んでいる土地でいつどんな地震が起きたのか、その時に津波は発生したのかといったことを、過去の堆積物の調査や、遺跡や文献などを再検証し、地震対策に役立てようとする取組が進められています。

横浜・八景島シーパラダイスの近くにある柴漁港前の道路の脇にひっそりと記念碑が建っています。その記念碑には、並木、幸浦、福浦が誕生する以前、海岸が埋め立てる前にあった「長浜千軒」という大きな漁村が、1311年（応長元年）一夜にして海中に沈んだという伝承が刻まれています。しかし、なぜかその伝承には地震という言葉は見当たりません。こういった地殻変動があったのか、津波によるものなのか、それが周期的なものなのかといったことについては、今のところ解明されていませんが、金沢工業団地の埋め立ての際に、海底から多くの巨木や幹や根っこが発見されたそうです。かつて長浜千軒には景観が美しい長く続く松並木があったというから驚きです。

最悪の事態に備え、防災意識を高めることが求められています。

（参考資料「ぶらり金沢散歩道」ほか）



お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2018」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索